

〈研究ノート〉

毛沢東時代における天津鬼市の歴史的変遷に関する 研究ノート

Research Notes on the Historical Changes in the Tianjin Ghost Market During the Mao Zedong Era

櫻井 想 (SAKURAI Sou)

概要

天津の鬼市は清朝末期の路上にて都市下層民や零細商人によって形成された。この市場では夜間に古物や盗品などが売られた。これまでも天津近代史研究においてこの市場は議論されてきた。しかしながら、中華人民共和国成立以後における研究はみられない。この研究ノートは中華人民共和国成立以後における鬼市の歴史的変遷について整理したものである。中華人民共和国成立以後、共産党が鬼市の反動勢力を打倒し、盗品の販売や夜間の交易を禁止した。このようにして、鬼市は天明市場へと生まれ変わった。この市場は毛沢東時代の各時期の政策によって異なる変容を見せた。本稿ではこの市場の変遷を主に五つの時期に区分し整理を行なった。

Abstract

The ghost market (鬼市 Guishi) in Tianjin was first formed at the end of the Qing dynasty by small merchants and lower-class residents of the city, who sold wares on the streets. Secondhand and stolen goods were sold in this ghost market. Research on the modern history of Tianjin also focuses on this market. However, no research can be found on the period following the establishment of the People's Republic of China. These research notes throw light on the historical changes in the ghost market that took place following the establishment of the People's Republic of China. After the People's Republic of China was established, the Communist Party defeated the counterrevolutionary forces that had formed the ghost market and prohibited both the sale of stolen goods as well as nighttime trade. As a result, the ghost market was reborn as the Tianming Market (天明市場). This market underwent various transformations due to the policies adopted during each period of the Mao Zedong era. This paper establishes a classification of five main periods that outlines the changes that occurred in this market.

摘要

近代天津所形成被称作“鬼市”的街头上的旧物市场。天津鬼市是由城市下层民众在街头上形成的一种旧物市场，其特别之处在于在天亮之前各种各样的旧物与盗窃团伙的偷盗物品一起售卖，因此在天津近代史上受到关注。

但还没有以解放后的天津鬼市为主题的相关研究，本文着眼于解放后的天津鬼市的历史变迁。关于

解放後の天津鬼市の記事已る幾篇。首先、在介绍这些文章中引以爲共同事实的基础上、进行整理。〈天津鬼市探秘〉与《南开区志》、《天津大辞典》指出天津解放后、经过多次整顿鬼市得到改造、1954或56年成立了、“天明市场”。解放初期、在市场里卖了旧废品、旧衣、旧木器、旧五金等等、1956年上市人员达2万多人次。这些文章都未有深入的分析。

本文引以爲据相关天津地方志与档案史料上、叙述解放后的天津鬼市的历史变迁的具体情况。解放后的这个市场明确区分开了是在解放初期（1949-1952年）与社会改造时期（1953-1957年）、大跃进时期（1957-1960年）、经济困难时期（1961-1965年）、文化大革命时期（1966-1976年）。

解放初期、国内有了很多问题。如经济还不稳定、贫困与失业人员增加。在这些情况下、天津市人民政府认为摊贩的存在即有补充余劳动人口问题的积极作用、但也有障碍交通、破坏社会秩序等消极作用。所以、这时期的对摊贩市场的整理是加强管理与适当限制的方针、而不是完全取消摊贩。

社会改造时期、是第一次五年计划开始经济社会主义改造。从1953年开始摊贩合作商店化或合作小组化、到了1956年、基本上在天津市内大部分的摊贩合作化。这时期的合作化商业的特性就是“多种经济成分并存的社会主义商业体系”。但还有单干户、尤其是天明市场的摊贩们、他们都是单干户。

大跃进时期、1957年开展了全民整风运动。对于这个运动、摊贩也是不能例外的。在这运动背景下、有了摊贩的违法行为。如偷税、漏税、各种投机倒把等等。于是这时期的天明市场也被取缔了。整风运动对天明市场普遍要求组织起来、因此组成了合作商店。他们在经营作风上有很大转变。从1958年6月起把合作商店及367户单干户、合并组成了四个大型的高级合作商店。为了进一步发挥他们的技术特长、把有生产技术的摊贩分别开办了36个生产制造及加工修理的工厂。这种作法不但符合于全党全民办工业的方针、而且同时还可以充分的发挥他们的特长和扩大废物利用。这时期的合作化商业的特性就是“单一经济成分的社会主义商业体系”。

经济困难时期、在大跃进的失败、中苏关系恶化、天灾等影响下、又发生了大量的失业人员、于是对摊贩的管理也放松了。后来、在天津市内发生了很多黑市、从62年7月起取缔了这些黑市、天明市场也是不能例外的。整理后、成立了“南开区废品旧物市场”。文化大革命以后、认为摊贩是“资本主义的尾巴”、摊贩市场都不能开市了。

序

近代中国の天津において古物を扱う攤販¹が集まることにより形成され、「鬼市」と称された路上の市場は、交易が夜明け前に行なわれたことや盗品が多く売られたことなどから、天津近代史研究ではたびたび言及されてきた²。しかし、共産党政権による新中国成立以後における鬼市の変容について一次史料に基づく具体的な研究はなされてこなかった。まず、新中国成立後の鬼市について書かれた幾つかの文章を紹介し、これまでにどのようなことが明らかにされているかを確認しておく

1 「「攤販」という呼称の出現は民国政府以後」（劉 2003: 217）のことであるとされ、「「攤販」とは、露店商・担ぎ売りの総称で「小販」とも称され」（金子 1988: 13）る。

2 天津近代史研究における鬼市への言及については（櫻井 2018）に詳しい。

たい。

『天津文史資料選輯』という天津地方史を扱う雑誌に掲載された「天津鬼市探秘」(胡 1994: 106) や、鬼市の管轄行政区である天津市南開区が編集した『南開区志』の中の「鬼市旧話」(天津市南開区地方志編集委員会編 1998: 977)、天津に関する様々な事柄が整理された『天津大辞典』の「天宝路旧物市場」という項目(来・郭主編 2001: 104)によると、鬼市は新中国成立以後も中古の廃金属類・古着・中古の木製品や木材・旧工具類など新中国以前までと類似した商品が扱われているものの、幾度かの取締まりを受け、夜間の交易が禁止・改変された結果「天明市場」となった。また、1956年には20000人もの利用者がいたとされるが文化大革命期においては閉鎖された。

具体的にこの市場はどのような変化を遂げたのであろうか。本稿では、天津の地方志や檔案史料を中心に、鬼市の変化を毛沢東時代の各時期における政治経済状況の変化や、攤販に対する当局の管理などに関連付けながら整理を行なう³。

1. 国民経済の復興期 (1949-1952 年)

1949年10月1日、毛沢東が北京の天安門にて建国宣言を行ない、中華人民共和国が成立する。この時期の中国国内の課題として、「日中戦争、その後の内戦で荒廃した経済の復興、および新民主主義革命でやり残した土地改革などの完成、チベットなどまだ修復していない領域の統合、そして新しい国家政権を制度化していくことなど」(毛里・国分編 1994: 2)があった。国際的には1945年2月のヤルタ会談によってアメリカによる対中封じ込めが始められ、資金・技術面の対外依存や、外国との貿易が難しい状況を迎えた(小島・石原編 1994: 2-3)。またこの時期、国内の貧困状況は深刻であり、全人口の9割を占める農民のうち6割は飢餓の状態にあったとされ、多くの都市部においてスラムが形成されていた(Ibid.: 3)。このような状況に加え、人口の急増という大きな問題も重なり、都市・農村部ともに膨大な数の失業者がいたとされる(Ibid.)。このような背景は天津の攤販を考えるうえで重要である。

天津は、建国宣言に先立つ同年1月15日に人民解放軍によって「解放」され、天津市人民政府が誕生している。この政府の下で新たな都市建設がなされるのであるが、攤販や攤販市場の存在は、新たな都市建設において大きな課題の一つであった。同市人民政府秘書処が編集・発行した内部刊行物『天津市政一頁』(以下、『市政一頁』)の創刊号は一部の記事を除いて、全て攤販管理に関する内容で占められている。以下、同史料に基づき、当時の攤販の状況と政府の攤販に対する問題意識について述べる。

『市政一頁』では、当時の攤販市場の状況について報告がなされている。これによると、天津市内に解放前には13ヵ所あった攤販市場が28ヵ所に、3891戸であった攤販の数は13000戸に増加した

3 本稿における毛沢東時代の時期区分については、基本的に(毛里・国分編 1994: 1)による以下の区分に依っている。

① 1949-1952年: 国民経済の復興期、② 1953-1957年: 社会主義改造期、③ 1957-1960年: 大躍進期、④ 1961-1965年: 国民経済の調整期、⑤ 1966-1971年: 文化大革命前期、⑥ 1972-1976年: 文化大革命後期。なお、文化大革命期の史料が収集困難なことから本稿では文化大革命期について考察は行っていない。

とされる（天津市人民政府秘書処編 1949: 3）。この背景として、戦乱による失業者の増加や店舗経営を行っていた商人が税逃れのために攤販化したことなどが指摘されている。当局が上海道・小営大沽路・南京道の3ヵ所の市場で376戸の攤販を調査した結果、失業した工場労働者の割合が32.6%と最も高い割合を占めていた（Ibid.: 4）。この報告は、先に述べた中国国内一般の状況をよく示していることに加え、攤販という職種が失業者の生計維持にとって重要な職種であったことをも伝えている。

また、攤販市場は経営の性質に基づき五つに分類されている。一つは、日用必需品（生鮮食品や布、雜貨類など）を扱う市場であり、二つ目は「早市」と呼ばれる交易時間が5～10時までの市場で、煙草やドライフルーツ〔干鮮〕、子供の玩具、菓子〔糖菓〕などが多く販売されている。三つ目は、「城郷交換市場」と称される、都市と農村の各産品が交易される市場を指す。四つ目は、古着や古物を扱う市場である。そして最後の五つ目に「鬼市」と「夜市」が挙げられている。鬼市は以下の特徴をもつとされていた。

鬼市は一種の正常ではない市場で、夜明け前に市が開かれ、日の出と共に姿を消すことから鬼市の名がついた。売り手の一方は、没落した家の者で家の衣服などを売りに出す。売手のもう一方は、泥棒で盗んできた物を売る。そのため、商品はボロの古着から珠玉・骨董などに至るまで何でもあった。買い手の多くは投機的な商人・ごろつき〔流氓〕・零細商人で、交易には暗号が用いられ、価格も定まっておらず、市場も固定されてはいなかったが、長い歴史を有している。この市場を取り消すのは困難である。

（Ibid.: 3）

鬼市は正常ではない市場として他とは区別・問題視されていたことが確認できる。

そして、攤販の整理が必要な理由として以下の六点が挙げられている。一つ目は交通の障碍となる点である。二つ目は、河岸で売買を行なう攤販が河川の氾濫を防ぐうえで障碍となっている点が挙げられている。三つ目は、社会秩序を乱す攤販（市場）の存在である。投機分子による金融の攪乱・金銀外貨の違法売買・泥棒やスリなどの温床・喧嘩の場となっていること、ある強盗・特務が戸籍虚偽の者の擺攤（物を並べ売る）行為を擁護し、密かに社会秩序を破壊する活動が行なわれているとする。四つ目は、物価をあおり、農民を騙す点である。五つ目は公共衛生の妨害である。六つ目が工商業の正常な発展に対する影響である。加えて、人民政府が生産力向上による経済繁栄を目指していたことから、生産に寄与しない攤販は積極的な意義を持つものではないとされていた。しかし、攤販市場は工商業が正常に発展すれば次第に減少すると考えられ、「管理の強化と適正な制限」を管理の基本方針とし、市政への悪影響を抑制する限りで整理を行なうが、完全に排除するわけではないことも明示されている（Ibid.: 5）。

以上のような背景から、天津市工商局は同年5月24日に「臨時攤販市場暫行管理規則」という規則を制定している。この規則を制定した目的として、市場の経営および交通秩序の維持が挙げられ

ている。そして、市内各区に攤販の経営が認められた臨時の市場が設けられ、営業を行なう攤販には登記が義務づけられた。指定の場所以外での物売りは禁じられ、商品も当局に認められた物だけが価格表記通りに販売しなければならなくなった（中共天津市委党史資料征集委員会・天津市檔案館 1991: 681-682）。『天津通志 工商行政管理志』によると、この臨時の攤販市場は天津市内各区（当時 11 区まで存在）にそれぞれ 2～3 ヲ所ほど設けられ、計 28 ヲ所の臨時攤販市場が開かれた。この臨時攤販市場が置かれた場所の一つに西広開があった（天津市地方志編集委員会辦公室・天津市工商行政管理局編 2005: 114）。西広開は、1930 年頃から鬼市が開かれていた場所（櫻井 2018: 177-182）であり、おそらくこの時に当局の管理がなされたであろうことが推測できる。

その後、同年 6 月 30 日に同じく天津市工商局によって「街頭小攤小商管理暫行規則」が制定される。この規則により、街道における流動的な攤販にも登記を行えば営業が認められるようになった。営業が認められる要件に、行商を行なわなければ生活を維持することが困難な人々、という文言があることから、このような人々が当時少なくなかったことに加え、臨時攤販市場のみではこのような人々を収容することが困難であったであろうことが、この規則制定の背景にあったと予想される（中共天津市委党史資料征集委員会・天津市檔案館編 1991: 682-683）。これは、上述の『市政一頁』で確認したように、当時多くの失業者が攤販に含まれていたことと関係していよう。攤販（市場）が新たな都市建設のうえで問題を抱えている存在であることを当局は認識しながらも、社会の状況上その存在を認めざるを得なかったのではなかろうか。

翌 1950 年春には、市場の管理委員会が成立し、仕入れと販売を行なう者・市場の商品・交易方式・交易価格・交易秩序の管理がなされる。鬼市が開かれていた（西）広開にもこの委員会が置かれた（天津市南開区地方志編修委員会編 1998: 495）。このように、攤販市場の管理体制が徐々に構築されていく中で、公安十一分局が 1952 年 6 月天明市場にて、共産党の経済政策や宣伝を歪曲した「反共」的な書籍、および低俗でわいせつな内容の古新聞が販売されていたことを発見した（天津市地方志編修委員会編 2001: 493）。また、同年 7 月には天津市公安局によって「攤販発証登記辦法」が制定される。これにより、攤販の登記申請には戸籍書類が必要となり、自転車の監視・印鑑を作る仕事・電話無線機材や中古品を販売する店は治安維持の観点から公安局への申請が別途義務付けられた（Ibid.: 509）。

2. 社会主義改造期と大躍進期（1953-1960 年）

上記のような状況が、社会主義改造期と呼ばれる 1953-1957 年の時期に大きく変化する。この時期、中国では朝鮮戦争を契機に対米への危機意識が高まり、国防の重視と重工業化の促進が図られた。この方針の転換に際して毛沢東が生産関係を重視したことから、中国は社会主義経済体制の構築を急速に進めることとなる⁴（山口 2008）。

4 建国初期の新中国は、新民主主義という思想のもと段階的に社会主義国家の建設を目指しており、経済的には軽工業が発展した後に重工業化を重視する方針がとられていたことで知られる。

1956年1月8日、天津市において資本主義工商業の社会主義改造工作隊が成立し、翌9日には商業部門全ての業種を公私合営化することが天津市委員会によって批准された（天津社会科学院歴史研究所編 1981: 86-87）。同年1月に天明市場の管轄区である南開区においても公私合営化が行なわれる。『南開区志』によると、51の業種、2052軒の私営店舗を対象に公私合営がなされ、攤販についても6611人が業種に基づき900余りの合作小組へと組織化された。同書はこの時期の合作化の性格を「多種經濟成分併存的社会主义商業体系」としている（天津市南開区地方志編修委員會編 1998: 390）。年末には天津市内43109戸（48389人）の攤販のうち、3900戸余り（約4000人以上）が公私合営店に加わり、7011人が601店の合作商店を構成し、21942人が3203組の合作小組を構成した。組織化しなかった者は6902人、營業許可証の無い者が7000人以上存在した（天津市地方志編集委員會辦公室・天津市工商行政管理局編 2005: 82）。このようにして大多数の攤販が合作化の過程を歩み始めたことにより、路上から攤販の姿が消えていったとされる（天津市地方志編修委員會編 2001: 509）。

その後、大躍進期と称される1957-1960年の時期において社会主義改造はさらなる展開をみせる。この時期に整風運動と称する社会主義思想運動が行なわれた。整風とは、考え方や仕事に取り組む態度を改める事を意味し、1957-58年にかけて全国的に第二次整風運動が行なわれた。攤販に対してもこの運動が行なわれた。その「目的は資本主義を打破し、社会主義を建立し、小商小販の政治的立場を改変すること」（蕭 1958: 1）にあった⁵。その背景に、当時の一部の攤販が投機的な行為を行なうなど資本主義的な傾向をもち（Ibid.: 4）、違法で儲ける者や政府の国営企業や供銷合作社のやり方に不満を示す者もあり、勤労や儉約といったことを忘れ浪費現象も発生することとなった点などが指摘されている（Ibid.: 7）。そのため、整風運動による思想教育が行なわれたのである。

整風運動以後、公私合営の店舗と小商小販は性質ごとに分類され、すべてが国営企業に組み込まれることとなる。これにより、1956年までの「多種經濟成分併存的社会主义商業体系」とは異なる「單一經濟成分的商業体系」の形成が目指され、所有制変革は過渡期を迎えた（天津市南開区地方志編集委員會編 1998: 390）。

1958年8月25日、天津市南開区工商局によってまとめられた「天津市南開区対天明市場經營廢旧物品的攤販改組改造工作介紹」という檔案史料があり、この時期に天明市場でなされた整風運動に関する報告がなされている。以下、この史料に基づき天明市場の変化を具体的に確認したい。この史料ではまず、「南開区天明市場で廢品古物の經營を行なう攤販は1751人おり、整風運動以前は全て個人經營であったが、整風運動後は1384人が149の合作商店を形成し、367人が個人經營として残っている」（天津市南開区工商局 1958）として、整風運動による合作化の概要が述べられている。続いて、天明市場の歴史的な経緯が以下のように記述されている。天明市場では「解放後、反動勢力が打倒され、攤販による明らかな詐欺行為は大きく減少したが、彼らの様々な脱税行為や各種の投機的違法はまだ深刻であることに加え、なお全てが個人經營であった」（Ibid.）。これまで言及される

5 ちなみに「小商」とは資本規模が小さな商店の經營者を指し、「小販」とは注1で記した通り、攤販を意味する。この両者はお互い小規模資本である点で共通しているものの、店舗の有無で区別がなされている。

ことのなかった解放後における鬼市の変化の詳細がここから伺える。すなわち、解放後に反動勢力が一掃された後も、経済復興期に制定された規則を天明市場の攤販達が遵守していなかったであろうことが読み取れる。このような状況は先に紹介した『小商小販的社会主义道路』で問題視された攤販と重なる。加えて、1956年の公私合営の際に天津全市で48389人の攤販のうち41487人というほとんどの攤販が合作化したにも関わらず、この天明市場の攤販は整風運動が行なわれるまで全てが個人経営であった、という注目すべき事実が指摘できる。全市で合作化に応じなかった攤販が6902人であったため、天明市場の1751人という数字は、この市場だけで全市の合作化しなかった攤販の約25%を占めていることを意味する。整風運動に至るまで鬼市は天明市場と改められてもなお、政府の意向を反映するような市場でなかったことがわかる。しかし、「五か月におよぶ整風運動を通じて、彼らが進むべき道を明確に示し、(中略)組織化することを要求したことにより、149の合作商店が組織化された」(Ibid.)。その結果、「彼らの経営作風や思想作風上大きな転換があり、価格の明記、返金・返品、商品の配送を行なうようになり、(中略)衛生に関する講義や義務労働など各種の社会活動にも積極的に参加するようになった」(Ibid.)という。

さらにこの運動は推し進められ、1958年6月25日には先に設立されていた149の合作商店と、これまで組織化していなかった残りの367人の個人経営の攤販とが、四つの大型高級合作商店へと合併された。この際、攤販の要求により基本給に奨励金が加算される給与体系から固定給への変更、福利厚生面では合作商店の成員への医療費支給、生活が困難な家庭にはさらなる補助が充てられるなどの改善がなされた。

加えて、旧来の鬼市の特性を考慮したうえで、以下のような改革が図られる。

さらにもう一步彼ら(攤販-筆者注)の技術的特徴を発揮させるため、四つの高級合作商店設立以後、各店の具体的な状況に基づき、生産技術をもつ攤販318人が、金鋼砂、白鉄、洗棉、麻刀、烘炉、制釘、木器、五金、電器、鐘表、汽灯、煉金、熔煉、廢鞋、手推車、電喇叭など36の生産製造及び加工修理工場にそれぞれ分かれて経営を開始した。(中略)これらの産品は全て回収してきた廢品を原料としており、これらの廢品を十分に利用することにより、生産コストを下げ、同時に各工場が原則として簡単に素早く・無駄なく稼働できる(中略)このような方法は全党全民による工業化の方針に適合しているだけでなく、(中略)同時に彼らの特長を十分に發揮することができるとともに、廢物利用の拡大ともなる

(Ibid.)

こうした旧来の経営作風に対する徹底的な改造と、新たな経営作風は天津市民に歓迎され称賛されたという。

3. 国民経済の調整期（1961-1965 年）

周知の通り、その後大躍進政策は失敗し生産力を大きく低下させることとなった。結果的に天災などの要因も加わり、1500 万人ともいわれる膨大な餓死者を出す。このような国内状況に加えて 1960 年頃から中ソの対立が深刻化し、「60 年 7 月のソ連の経済技術協定の破棄、部品、石油などの供給停止により」（小島・石原編 1994: 8）経済は大きく後退した。このようにして、1960-1962 年にかけて中国経済は非常に困難な時期を迎えた。その結果、「ほとんどの建設プロジェクトを中止し（中略）直接生産に関係しない建設は大幅に削減され（中止）大量の労働者の失職につながった」（Ibid.）とされる。

このような状況下で国家は「籠の中の鳥を放つ」政策を行ない、攤販を国营企業から解職し、業種に基づき新たな合作店（組）を組織させ、損益を自らに負わせた（天津市南開区地方志編修委員会 1998: 390）。結果、『天津通志 公安志』によると、1961 年 7 月には市内の 80 ヶ所余りで闇市が出現した。翌 8 月公安・工商行政管理局が連携して取締まりを行ない、一か月余りで 100 以上の集団が逮捕された。この状況は 1962 年にも続き、同年 6 月に中共天津市委の批准を経て組織的に攤販市場が解放されたものの、交通妨害や配給制の券や物資などを売っていた攤販が取締まりを受けた。8 月 18 日に公安分局長たちが秩序維持の為の整頓工作を行なうことを決定する。各公安分局が警察を出動させ、100 ヶ所以上の市場で整理を行ない、17000 人以上の攤販を取締まった。この整理を行なったうえで、和平区長春道・上海道、紅橋区候家後、南開区西広開など計 35 ヶ所で市場の再建を行なった（天津市地方志編集委員会編 2001: 509-510）。

1964 年 1 月 25 日に天津市工商局によってまとめられた「天津市南開区廢品旧物市場改造工作總結」という檔案史料から大躍進後から同時期に至るまでの天明市場の変化の詳細を知ることができる。以下、同史料に基づき同市場の変化について述べる。

まず、1958 年の大躍進が高潮する中で、合作組織の一部の成員は国营商業に参加し、他の一部の成員は工業交通部門を支援したことにより、天明市場は基本的に消失するに至ったとされていることがわかる。その後、市場は以下のような変遷を遂げた。

1960 年以後、（中略）経済的に困難な時期へと至り、工業製品市場は供給不足となり、一部の住民は廢品古物によってこの不足を補うことを要求したことにより、これらの商品を無許可で販売する商販が大量に生じ、これに乗じて投機的分子が再び起こり、闇市による交易が絶え間なく出現した。1962 年 7 月都市集市貿易の解放に伴い、南開区広開・天明二つの廢品古物市場が正式に形成される。当時この二つの市場の規模はとて大きく、靶場道・広開大街等 13 の街道と里巷を含む全長約 6.6 華里（約 3.8km- 筆者注）におよび、毎日市場で売買を行なう者は 80000 人に達し、營業許可証を持たずに市場で経営を行なう商販は約 5000 人いた。これは全市における無許可の商販の三分の一以上に相当した。その中には資本家へと逆戻りしていく者、（中略）相当数のリストラされた労働者とその家族、手工業者、退学した学生や無職の市民など、元々

国営商業と工業交通部門に参加していた商販約 1000 人がおり（中略）、これらの営業許可証を持たない商販には、不正購入品の転売・長距離の輸送販売・顧客への詐欺など非常に深刻な現象がみられた。

（天津市工商局 1964）

経済状況が悪化し失業者が大量に生じたことについては、先述したこの時期における中国一般の状況の通りである。このような人々が生活に必要な供給不足の物品を転売する攤販の担い手となり、かつて鬼市があった場所に再び集まって経営を行っていたことがわかる。同時期においてこの廃品古物市場では、自転車の部品・チューブとタイヤ・運動靴・新旧の衣服・各種布地・皮製品・新旧の麻袋・各種の鉄〔黒白鉄〕・中古の金属工具〔旧五金工具〕・西洋医学の薬・こまごまとした雑貨など新品・中古、一般・配給物資を含む 30 を超える品目が売られていた。1962 年 10 月の交易额は 290 万元余りに達した。これは、市区の攤販市場の交易総額の 50% 以上に相当した。各人の毎月の平均収入は 150 元前後あったとされる。この廃品古物市場の形成には、社会の一方では不要な、しかし一方では必要とされる古物が転売されることにより計画経済の供給不足を補うことができる、という積極的な意義が認められる一方で、計画経済とは衝突する資本主義や投機的行為を助長し、市場の秩序を乱すという消極的側面の方が大きいと当局は考えていた。1962 年 7 月に市場が解放されて以後、天津市の関連部門及び区委員会の直接指導のもと、この市場に対して持続的かつ大規模な整頓が行なわれ、資本主義的な投機的活動に対して取締まりが行なわれた。基本的にこのような活動は全て取締まれ一年以内に市場の赴きは根本から変化した。

この時期になされた具体的な整頓内容は大きく 3 点あった。一つ目は、市場の秩序の整頓ならびに市場の規模圧縮である。広開・天明、二つの市場が形成されて以後、登記をしていた 3096 戸以外の攤販を全て取締まり、さらに二度の登記整理を行なうことにより、市場内の攤販を 1400 人余りにまで圧縮した。また、管理を容易にする為に、10～15 人で一つの小さな組を編成し、4～5 つの小組で一つの大きな組を編成し、大小それぞれ組長を配し市場の管理機構の指導の下で市場の管理規定を貫徹させ、投機違法行為を監視させた。その他、夜間の交易を許さず、市場の営業時間を規定した。徐々に市場の規模を縮小させ、二つの市場を一つに合併した。

二つ目は、市場で販売可能な商品の範囲を制限し、投機的な活動を行なわせないようにした。新品の工業製品と 14 種類の重要な廃品古物を市場で販売することを禁止した。1962 年 10 月の広開市場の統計では、新品の工業製品を売る攤販が 1600 戸以上存在し、この市場の経営総数の 55% を占めていた。1962 年の広開・天明市場における新品の工業製品の交易额は 265 万元であり、新品の工業製品の総交易额の 35% を占めた。この販売を取締まることは市場の範囲を縮小するのに重要な作用を及ぼした。1963 年 1 月に販売を禁止して以後、市場の交易额は著しい下降を見せた。

三つ目は、経済措置の強化である。国営の廃品公司（廃品回収会社）の廃品回収業務を強化し、機関企業で生じた廃品古物を個人経営の攤販、とりわけ営業許可証を持たない攤販に売ることを禁じ、国営或いは指定の合作商店に回収させるようにした。

上記の結果、1963年11月時点で国営の廃品回収所が18ヵ所・経営人員33人、合作商店は74店・296人、合作小組は28組・128人となり、市場で売買を行なう者は最も多かった時期の80000人から2000人前後へと減少した。市場の全長も3.8kmから500m強へと縮小した。生活が著しく困難な攤販には別の業種への転職が斡旋された。このような攤販は143戸おり、65戸の攤販は水道・暖房・電器等の手工業種への転職が斡旋され、78戸の攤販については果物と野菜を扱う業種への転職が斡旋された。

このような攤販の違法経営とそれに対する当局の取締まりは、資本主義勢力が徹底的に一掃された文化大革命期（1966-1976年）に収束を迎える。1968年10月に、個人経営の手工業・攤販に携わる人々の組織であった「個体手工業攤販連合会」が解体され、天津の攤販市場は完全に閉鎖された（天津市南開区地方志編集委員会編1998:495）。

小結

ここでは本稿の議論を再度整理したうえで残された課題を提示したい。

新中国成立直後の経済復興期において攤販は交通・河川・治安・物価・衛生・工商業の正常な発展に対して悪影響を及ぼす存在とみなされた。しかし、同時に攤販は当時増加していた失業人口の重要な受け皿となる職種でもあった。そのため、規制は年々厳格化していったが、登記による管理の下で、個人経営が合法的に許可されていた。鬼市もこのような管理下にあったことが、臨時攤販市場や市場管理委員会の置かれた場所、ならびに1952年6月の公安局による摘発の事例などから推測される。本論で取りあげた大躍進期の檔案史料から、この時期に鬼市の反動勢力が打倒され秩序が部分的に改善されたものの、まだ違法行為が行なわれていたこともわかった。

社会主義改造期には、基本的に攤販は個人経営から合作化の道が図られる。この社会主義化を促進させた背景に、朝鮮戦争による対米意識の高まりがあった点を指摘した。合作化の性格は社会主義改造期と大躍進期とは異なっており、天津市内の多くの攤販は前者の時期に合作化した。天明市場では個人の攤販で全てが占められ、違法行為も行なわれていた。このような状況が大躍進期の整風運動にて大きく変化する。天明市場の攤販が合作化されたばかりか、回収してきた再利用可能な古物に関しては再生産の役割を担うようにもなった。これは、当時当局が目指した社会主義経済体制に従来の鬼市の特性を考慮したうえでなされた改造工作であり、イデオロギー的な側面と実質的な経営の両側面との改造を成就させようとしたものであるといえよう。

1960年頃に中国経済が困難な時期を迎えると再び攤販の規制が緩和され、60-62年にかけて、違法行為が数多く行なわれ再び攤販市場の秩序は乱れることとなる。そして1962年7月頃から再び市場の整頓が行なわれた。市場再建によって大躍進期以後、消失していた天明市場は南開区廃品旧物市場となり、攤販人員の圧縮、販売可能な商品の制限、廃品流通の規制がなされ、市場の規模は著しく縮小された。その後の文化大革命期には「資本主義の尻尾」と見なされ、その存在を完全に否定されるに至った。

以上のように、攤販、とりわけ鬼市（天明市場・南開区廢品旧物市場）は、常に社会が不安定になった際に人々が生計を立てる場の受け皿の一つとして興隆を繰り返してきたことがわかった。その興隆には、中国国内および国外の政治経済的な状況の変化が密接に関わっていた。複雑な政治経済状況の過程で生じるインフォーマル性をもつ経済活動が鬼市において顕著にみられる点で、鬼市は示唆に富む事例であるといえる。

今後の課題として、以下の二点を指摘したい。一つ目は先行研究との関係である。新中国成立後の攤販管理に関する先行研究は多くないものの、北京・上海・武漢などの都市を事例として扱った研究が近年なされている。これらの先行研究と本事例を関連付けながら論じていく必要があるだろう。二つ目は、資料面の課題である。今回の報告は地方志や檔案史料といった公的な資料のみに依っている。当然、公的な資料からはこぼれ落ちる事実が無数にあることはいうまでもない。加えて、事実に対する解釈も偏る可能性が指摘できよう。今後、毛沢東時代について可能な限りインタビューによる口述資料やその他の資料を収集し、史料批判を行なっていく必要がある。

参考文献

< 檔案史料 >

天津市檔案館（天津市南開区工商局）「天津市南開区対南開区天明市場經營廢旧物品的攤販改組改造工作介紹」（1958年8月25日）、檔案号：X0283-C-000626-024

天津市檔案館（天津市工商局）「天津市南開区廢品旧物市場改造工作總結」（1964年1月25日）、檔案号：X0283-C-001530-012

< 中国語文献（拼音 abc 順）>

胡蘊輝 1994「天津鬼市探秘」『天津文史資料選輯』63.

来新夏・郭鳳岐主編 2001『天津大辞典』天津社会科学院出版社.

劉海岩 2003『空間与社会—近代天津城市的演变』天津社会科学院出版社.

天津市地方志編集委員会辦公室・天津市工商行政管理局編. 2005『天津通志 工商行政管理志』天津社会科学院出版社.

天津市地方志編修委員会編 2001『天津通志 公安志』天津人民出版社.

天津市南開区地方志編集委員会編 1998『南開区志』天津社会科学院出版社.

天津市人民政府秘書處編 1949『天津市政一頁』第1期.

天津社会科学院歴史研究所編 1981『天津歴史資料 第12期』天津社会科学院歴史研究所.

蕭林 1958『小商小販的社会主义道路』上海人民出版社.

中共天津市委党史資料征集委員会・天津市檔案館編 1991『天津接管史録』中共党史出版社.

< 日本語文献（50 音順）>

金子肇 1988「上海における「攤販」層と国民党に関する覚書—商民協会の結成とその廃止をめぐる

て一」『広島大学東洋史研究室報告』10.

小島麗逸・石原享一 1994『原典中国現代史 第3巻 経済』岩波書店.

櫻井想 2018「近代天津における鬼市の変遷と都市管理」『中国—社会と文化』33.

毛里和子・国分良成編 1994『原典中国現代史 第1巻 政治上』岩波書店.

山口信治 2008「毛沢東による戦略転換としての新民主主義段階の放棄」『アジア研究』54 (1).

なお、本稿は国立民族学博物館の2018年度特別共同利用研究員制度を利用し行なった研究にもとづくものである。また、資料収集などの現地調査にあたっては龍谷大学国際文化学会の研究補助金の受給を受けた。ここに記して両機関に謝意を表したい。